



▲飯富長壘  
南から撮影。約600mにわたって土壘と堀が断続的に残っています。

▼飯富長壘の土壘と堀



# 水戸の城さんぽ

問合せ／歴史文化財課（☎306・8132）

其の七

## 飯富長壘

### 江戸氏攻防の跡

城館は、山や丘陵を堀や土壘で切り盛りし、要塞化していくのが普通です。一方、土壘や堀を単独で築く「長壘」と呼ばれる城館関連遺構も存在します。長壘は、堀と土壘が数10m〜数kmにわたって延びるシンプルな構造で、高さは2〜4mが一般的です。構築の目的は、街道を塞ぐためとか、城館を守るためという説がありますが、はっきり分かっていません。県内で確認されている長壘は約60例で、全体の城館数の約5%。他県ではもっと少なく、茨城県内において特徴的な遺構とされています。そんな長壘の代表例の一つが、今回紹介する飯富長壘です。飯富長壘の高さは約4m、長さは約600mにもなります。また、長壘は一重の堀と土壘が多いのに対し、飯富長壘は三重と堅固なつくりになっているのも特色です。

城館は、山や丘陵を堀や土壘で切り盛りし、要塞化していくのが普通です。一方、土壘や堀を単独で築く「長壘」と呼ばれる城館関連遺構も存在します。長壘は、堀と土壘が数10m〜数kmにわたって延びるシンプルな構造で、高さは2〜4mが一般的です。構築の目的は、街道を塞ぐためとか、城館を守るためという説がありますが、はっきり分かっていません。県内で確認されている長壘は約60例で、全体の城館数の約5%。他県ではもっと少なく、茨城県内において特徴的な遺構とされています。そんな長壘の代表例の一つが、今回紹介する飯富長壘です。飯富長壘の高さは約4m、長さは約600mにもなります。また、長壘は一重の堀と土壘が多いのに対し、飯富長壘は三重と堅固なつくりになっているのも特色です。

▲飯富長壘縄張図  
作図：青木義一（『続 図説茨城の城郭』）

飯富長壘のある丘陵は、中世には大部平と呼ばれ、江戸氏の中心領域である中妻三十三郷の一部でした。江戸氏は中妻三十三郷の支配に力を注いでいたため、この領域内での合戦の記録はほとんど確認されていません。しかし、実は、大部平のみ2回も合戦の舞台になっているのです。そしてそれは、江戸氏の歴史の中でも重要な合戦でした。

このように飯富長壘は、長壘という全国的にも珍しい遺構であるとともに、江戸氏が注力した中妻三十三郷内における、数少ない合戦の舞台となった、貴重な城館関連遺構といえるのです。

歴史文化財課 関口慶久



【発行】水戸市 ☎029・224・1111（代表）  
〒310-8610 水戸市中央1-4-1  
ホームページ／<https://www.city.maibashi.jp/>

【編集】みとの魅力発信課 ☎029・232・9107  
☎029・224・5188 [kouhou@city.maibashi.jp](mailto:kouhou@city.maibashi.jp)